

2025 年度事業計画書

(2025 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

1 本部

(1) 総会・理事会の開催 (予定)

- ・ 第 1 回理事会 : 2 月 8 日 (土) 14 時 <同窓会+オンライン=L> 「決算など」
- ・ 定 時 総 会 : 3 月 7 日 (金) 14 時 <同窓会+L>
- ・ 第 2 回理事会 : 3 月 7 日 (金) 総会後 <同窓会+L> 「役員分担など」
- ・ 第 3 回理事会 : 9 月 26 日 (金) 15 時 <ホテルポールスター札幌、リアル> 「収支中間報告など」
- ・ 第 4 回理事会 : 12 月 13 日 (土) 16 時 <同窓会+L> 「次年度予算など」

(2) 刊行物・電子メディア等での発信

- ・ 会報
第 62 号 8 月発行 (予定)
- ・ 会誌
2025 年度 11 月発行 (予定)
- ・ ウェブサイト
創基 150 年を考慮したビジュアルな発信物に注力する。会員ログインシステムや会員情報登録更新システムの周知を図る
- ・ マスメディア
重要案件等をマスメディアに対し、積極的に情報提供していく。
- ・ 発信体制
「さっぽろ農学校リポーター・サポーター」と「さっぽろ農学校シニアサ

ポーター」、「さっぽろ農学校特別講師」の協力を得て進める。

(3) 交流・親睦事業

- ・ 新年交礼会（例年 1 月開催）＝学部主催＝の開催を支援する。1 月 6 日 18 時開催予定。
- ・ 新入会員歓迎会（卒業祝賀会）＝学部主催＝の開催を支援する。3 月 25 日午後開催見通し。東京・関西支部の協力を得る予定。
- ・ アルムニレクチャー＝学部主催＝の開催を支援する。開催の場合は東京支部または関西支部から会員を招聘し、懇親会も開催する。
- ・ 学生会員制度発足により、学生全体を対象に、「新入会員ガイダンス」の開催を検討し準備する。学年別または学科別開催も検討。
- ・ 親睦園遊会（例年 6 月末開催）は、6 月 27 日（金）夕に開催する。
- ・ 遠友夏学校を 6 月 28 日（土）午前に開催する。
- ・ 理事・代議員集会は、6 月 28 日（土）午後 to 開催する。
- ・ 理事会、「元教授・役員等交流会」（例年 9 月開催）を、北大ホームカミングデーの前日、9 月 26 日（金）午後 to 開催する。
- ・ 市民公開「新渡戸稲造記念講演会」を学部とともに開催する。9 月 27 日（土）午後開催を想定し、学部と協議へ。

(4) 母校への助成

- ・ 農学研究院・農学院・農学部への助成を行う。
- ・ 卒業・修了生への学位記ケース助成、クラーク農学賞図書券助成を行う。
- ・ 外国人留学生交流会助成など、必要な事業に対して助成を行う。

(5) 学会開催等への助成

- ・ 学会開催助成を申請に基づいて行う。第 1 回理事会において助成対象を決定する。

(6) 農業農学振興事業等への参画・助成

- ・親子食農体験講座「あぐり大学」（年４回程度開催）と市民公開講座「時計台サロン」（年４回開催予定）などを展開している農学部・北海道新聞編集局連携事業には、引き続き、実行委員会への参加、各種助成などを行う。
- ・当会主催の「出張時計台サロン」は、道民カレッジの連携講座に登録し、講師料も定額であることから、道民への周知を積極的に行う。北海道銀行が全営業店舗での映像資料放映の機会を提供してくれたことから、これを積極的に活用していく。

（７）農学生緊急支援

- ・学生院生たちの生活とバイト環境は、以前より改善されたとはいえ、コロナ情勢等によっては、再び厳しくなる可能性も否定できない。2020年５月から取り組んでいる農学生緊急支援プロジェクトは、今後とも、カンパや関連広告（会報等）を受け付けるとともに、生活支援必要時のために蓄えは維持し、必要な支援を行っていく。
- ・会員諸氏と市民からの緊急支援カンパは目的指定寄付で、特別会計扱いであるが、取り組み内容によっては、一般会計からの支出も検討する。

（８）同窓会メディア拡充

- ・オンライン会議対応、電子メディア対応の拡充が求められていること、学生を含むより若い層への情報提供が一層求められていることから、同窓会デジタルメディアの拡充を進める。
- ・同時に、母校と同窓会、農学を知るのに役立つ情報を紙でも提供することが求められていることから、冊子やブックレットを発行する（2025年はブックレット２冊を発行予定）
- ・北大創基150周年記念事業と連動した当会の貢献プロジェクトの中で、「植物画」図録または写真集の発行を検討する。
- ・これらの事業は「さっぽろ農学校サポーター」と「さっぽろ農学校シニアサポーター」「さっぽろ農学校特別講師」たちの協力を得て進める。

（９）「新渡戸プロジェクト」への協力

- ・新渡戸稲造先輩（1881＝明治14＝年卒業）が遠友夜学校を開いた土地（現在の新渡戸稲造記念公園＝札幌市中央区南4東4）に、新渡戸遠友リビングラボ」（仮称）を建設する運動が、一般社団法人「新渡戸遠友リビングラボ」（略称NELL、旧新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会）を中心に進められており、母校北大も、同館を大学サテライトとして、またSDGsを目指す北大のシンボルとして、また社会教育を中心とした社会貢献の場と位置づけ、北大創基150周年記念事業の「応援事業」に指定した。建築設計や建材への研究林木材の提供などを進めている。
- ・この運動はまた、北海道と札幌市、JAグループ北海道や北海道商工会議所連合会など経済界と自治体の参画と強い関心の下に広がりを見せており、同窓会としては、建設及び施設運営、事業展開を含む運動全体を支えるべく、全面的に連携、協力していく。

(10) 「北大創基150周年記念関連事業検討プロジェクト」の推進

- ・北海道大学と農学部は2026年に創基（開学）150周年を迎えることから、その記念事業を準備・推進している。当会としては、母校を応援するとともに、農学部と農学同窓会らしい事業に取り組む。このため、「北大創基150周年記念関連事業検討プロジェクトチーム」（チームリーダー：木山副理事長）が中心となってプロジェクトの内容検討や推進計画と実践を進めている。
- ・プロジェクトの柱は、着手順に、①「新渡戸遠友リビングラボ」（略称：NELL）建設運営支援、②「お宝」発掘発信プロジェクト、③農学部中央棟の鐘の音復活、④北海道ワイン教育研究センター建設支援－の4つ。
- ・このうち、①は（9）に述べた通り、（一社）新渡戸遠友リビングラボと連携し、建設・運営事業に全面協力する。また②については、農学部などに保存されていた「植物画」や「動物画」、戦前の「同窓会報告」、先達の遺品や会員から会に寄せられる貴重なお宝資料を整理保存し、当会HP上の「お宝アーカイブス」等で発信していく。特に「植物画」についてはその歴史的価値、アートとしての価値に注目が集まっており、北大総合博物館などと協力して、北大150周年記念の展示会開催と写真集発行を検討していく。③は復活工事を当会として実施したが、関連する資料の展示コーナーの整備について、今後農学部とともに検討し、必要なことを進める。④については当会と東京・関西支部から寄付金を贈呈し、プロジェク

トは終了した。

- ・以上の他、全学で取り組まれている「創基 150 周年記念事業」への協力などについて検討を進める。

(11) 学生会員制度の普及・定着

- ・新たに発足した学生会員制度の速やかな定着、進展を図るため、教員や学部事務関係者との連携のもと、当会の歴史や事業の周知、入会メリットの具体化、簡単で分かりやすい入会手続きの構築を急ぐとともに、学部移行生を中心とした学生院生全体への P R 活動等を積極的に展開する。
- ・学生入会メリットを実現する事業として、英語検定料の助成を実施するほか、実施可能な事業を検討する。

2 東京支部

札幌農学同窓会東京支部は会員相互の交流及び知識の向上を図るため、2025 年度において次の事業を行う。

(1) 通常総会の開催

2025 年 2 月 15 日（土）14 時 00 分から、TKP 東京駅カンファレンスセンターにおいて、対面方式とオンライン (Zoom) 方式を組み合わせで開催する。

(2) 理事会の開催

オンライン方式での開催を基本としつつ、必要に応じて対面方式での開催も組み合わせ、概ね 2 ヶ月毎に適宜開催する。なお、第 1 回会合は、総会準備のため 2025 年 1 月に開催する。

(3) 講演会の開催

会員への情報提供の機会として、時宜に適したテーマによる講演会を積極的に実施することとし、第 1 回目を 2 月 15 日（土）に予定している総会の終了後に、北大農学研究院から講師（小出陽平准教授予定）を招聘して開催する。

また、例年秋期には獣医学部同窓会関東支部と共催講演会を開催してお

り、今年度は、農学部側が講師の選定等を行うこととなっている。

さらに、講演会の開催に際しては、できるだけ懇親会を併せて実施し、会員交流の促進に努める。

なお、会員の積極的な参加を喚起するため、対面方式とオンライン方式を組み合わせて実施しており、今年度も同じ方式を基本に開催する。

(4) 新人歓迎会等の開催

東京地域に就職した今年の卒業生を対象に、新人歓迎会を6月(日程未定)に新規に開催する。なお日程については関西支部が開催する新人歓迎会と同日として卒業生への周知を図る。

そのほか、これまで「女性同窓生オンラインお茶会」、「会員交流サロン」など、オンラインを活用した会員交流を進めてきているが、引き続き、相互交流機会の設置に努める。

(5) 各種行事への支部代表の派遣

3月下旬に予定されている修了・卒業祝賀会に、要請があれば、東京支部代表を派遣する。

北大農学研究院主催の「札幌アルムニ・レクチャー」について、必要に応じて、東京支部代表の派遣を検討する。

関西支部主催の「市民公開フォーラム」等に役員を派遣し、支部間の交流を図る。

(6) 各委員会の活動

1) 札幌農学校普及委員会

「札幌農学校」出版助成・普及頒布事業として、入学・進学時の学生、院生を対象として毎年4月に一括寄贈する。

農学部に進学する「新渡戸カレッジ」の学生および院生(合計約30名)を対象として、新渡戸稲造の世界的な名著である「Bushido」、内村鑑三の「代表的日本人」「後世への最大遺物」を寄贈する。

2) 企画・交流委員会

講演会等の企画、講師候補者の選定、支部代表の派遣候補者を検討するとともに支部活動の活性化に向けて、各種行事の機会を利用して、若手会員や女性会員の参加を促していくことに加え、農学部の特色を生かした新規行事の企画を検討する。

3) 情報委員会

東京同窓会情報処理委員会と連携を図り、札幌農学同窓会東京支部ホームページの充実を図るとともに、会員への情報発信を拡充するため、各種行事のオンライン化・ハイブリッド化、メルマガの積極的配信等を進める。

さらに、東京支部会員のメールアドレス登録数の拡大を図るとともに、会員連絡方法の電子化に必要な会員名簿整備のため、本部情報担当理事との連携を強化する。

(7) その他

東京支部会員の移動・消息情報の本部への連絡等を通じ、「札幌農学同窓会会員名簿」の正確性向上に協力する。

北大東京同窓会等の各種関係団体との連携を図る。

3 関西支部

(1) 通常総会の開催

- ・2月15日(土)に大阪ガーデンパレスにおいて通常総会を開催する。
今回の総会では20周年を記念した記念式典・懇親会を総会後に計画している。
若い同窓会員の参加を促す意図で農学部卒の若手起業家2名を招聘しその周辺からも声掛けをして頂く予定。
また関西支部開設以来永らく本会活動にご尽力頂いた方(和田武夫氏、山口利昭氏)に対して功労感謝をさせて頂く事で準備中。

(2) 講演会の開催

- ・春季講演は例年通り総会後に行いますが、記念企画の若手起業家2名として東京支部理事(株)クイージー主宰 石崎氏(2003年環境資源学科修士卒)、農学大学院生修士1年目の(株)パイオビア主宰 宮地氏にお願いをしている。
- ・秋季講演は10月15日(土)ホテル日航大阪で作家岩井圭也氏(H24農学大学院応生修了)の招聘で進め、北大関西同窓会総会と同時開催を関西支部20周年記念(第2弾)講演とし、開催を予定している。

(3) 新卒同窓会員歓迎会

- ・ 6月3週末(調整中)に大阪天王寺「てんしば」で水産学部、獣医学部合同でのジンギスカンパーティー計画中。
- ・ 今回は初めての企画ですが、横の連携を拡げることによって、若い会員の参加促進を試行する。

(4) 市民公開フォーラムの開催

- ・ 例年6月の開催であったが新卒会員歓迎会を6月に開催する為、11月の開催を計画する。企画内容は現在検討中である。
- ・ 今までの協働関係を活用し大学や女性コミュニティとの連携を維持して開催を目指せる新しい企画を検討中である。

(5) 理事会の開催

- ・ 本年度も毎月一回(8月を除く)理事会を開催し業務の遂行を行う。

(6) アルムニレクチャーへの講師派遣

- ・ 北大農学研究院主催の「アルムニレクチャー」については大学より派遣要請を受けたので、(株)プノントイ主宰 吉成絵里香さん(2015年森林科学科卒)を紹介した。

(7) 修了・卒業祝賀会への関西支部代表の派遣

- ・ 修了・卒業祝賀会が実施されれば関西支部代表を派遣し、本部とともに札幌農学同窓会会員入会促進を行う。

(8) 同窓会会費の納入促進と新入会員の参加促進

- ・ 同窓会員に向けた企画を増やす為に本年度より新卒会員歓迎会を水産、獣医同窓会と連携して初めて挑戦する。
- ・ 若い卒業起業家や話題性のある若い卒業生を招聘できる企画を創出し、その機会を増やす事でリソース強化を進める。
- ・ 開設したホームページの魅力向上と情報発信の強化で、アクセス件数増加を試行する。